

仙台御筆



せんだいおふで



大友毛筆4代目 大友博興 作



大友毛筆2代目大友長七 作

資料

日本の筆の産地

日本の筆を「和筆」といいます。

筆の生産シェアが全国の約8割

くまの
熊野筆

川尻筆

京筆

雲平筆

仙台筆

江戸筆

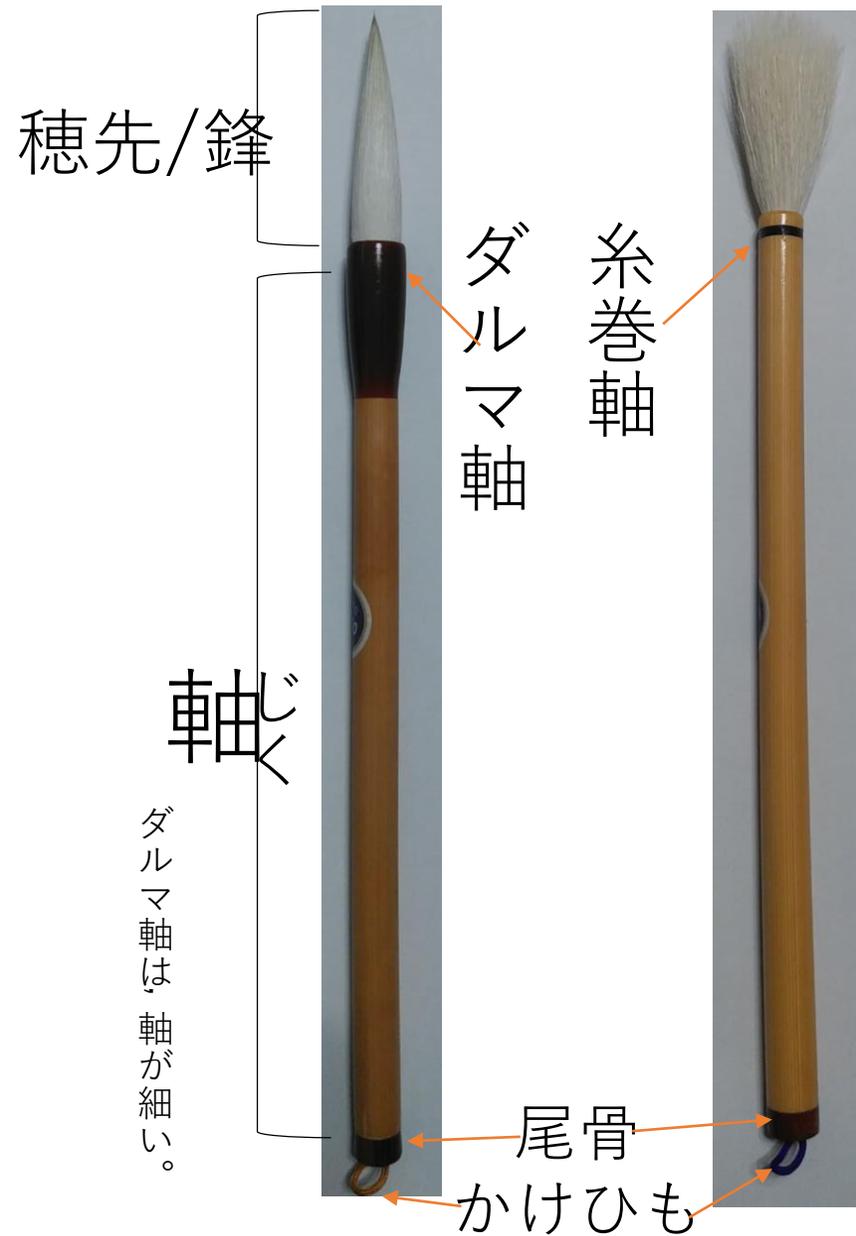
有馬筆

奈良筆

豊橋筆

書道用の筆は中国から日本へ伝わったものです。中国の筆をもとに、さまざまな工夫をこらして日本で優れた筆が生まれました。中国の筆を「唐筆」といいます。

筆のいろいろな部分の名前



穂の毛組みには、長さや種類がちがう毛を使用します。



穂先
ほさき



のど

かた
肩

はら
腹

こし
腰

筆の種類

ごうもうひつ

剛毛筆

もうしつ かた うまげ げ
毛質が硬く、馬毛・りす毛・
いたち毛^けなど。



けんもうひつ(けんごうひつ)

兼毛筆(兼毫筆)

ちゅうしん ごうもう つか そとがわ ようもう
中心に剛毛を使い外側に羊毛
を巻^まいてつく^{つく}ったふ^ふで^で筆。



ようもうひつ(じゅうもうひつ・じゅんようごうひつ)

羊毛筆(柔毛筆・純羊毫筆)

ちゅうごく やぎ け はくしよく やわ
中国の山羊の毛で白色。柔らかい。



※兼毛筆のなかには、羊毛と剛毛を全体的に混ぜ合わせたものもあります。

※剛毛や羊毛でも、細かくて筋の通った毛を中心にして、やや質の落ちる毛を外側に巻き、さらに上質な毛で巻いています。

せんだいおふで だてまさむね きょうと ごしょ ねが ふでし ゆうげんびんごのかみ おとうと
仙台御筆は、伊達政宗が京都の御所に願い出て、筆師「幽玄備後守」の弟

しゅうごのじょう まね ふで なら はじ
「周五之丞」を招いて筆づくりを習わせたのが始まりとされています。

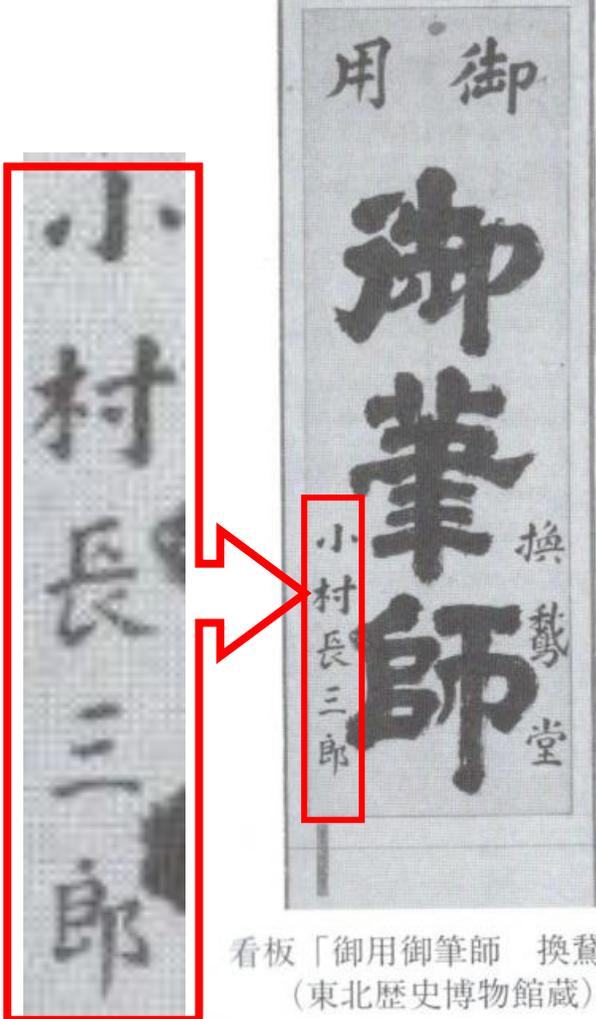
ご せんだいはん かか ごようふでし おおさか こむら またべえ
その後、仙台藩のお抱えの御用筆師として大阪から「小村又兵衛」を仙

まね ふで しょくにんいくせい つと つた
台に招いて、筆づくりや・職人育成に務めたと伝わっています。



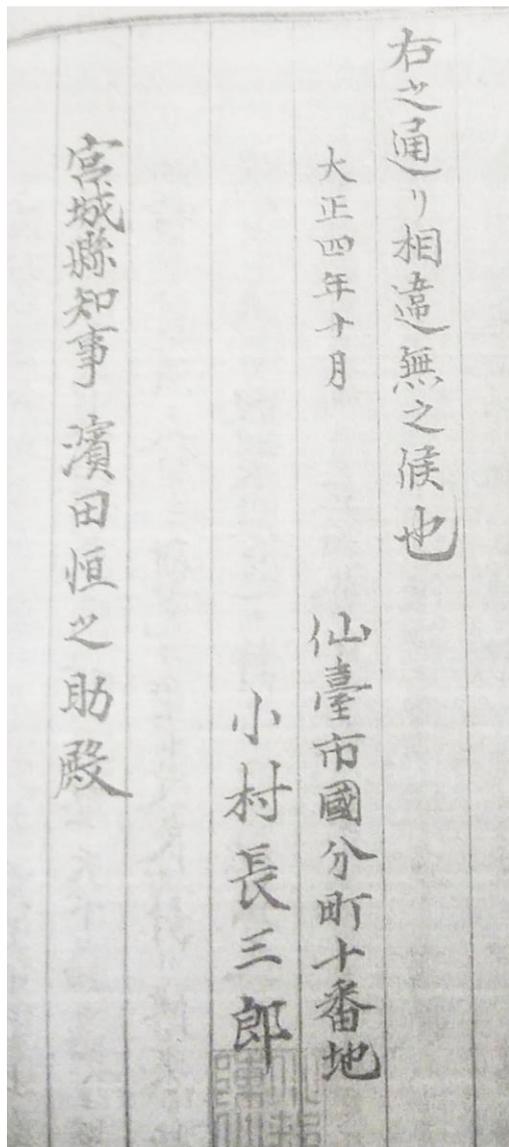
資料

えどじだい こむらけ みせ かんばん 江戸時代の小村家の店の看板



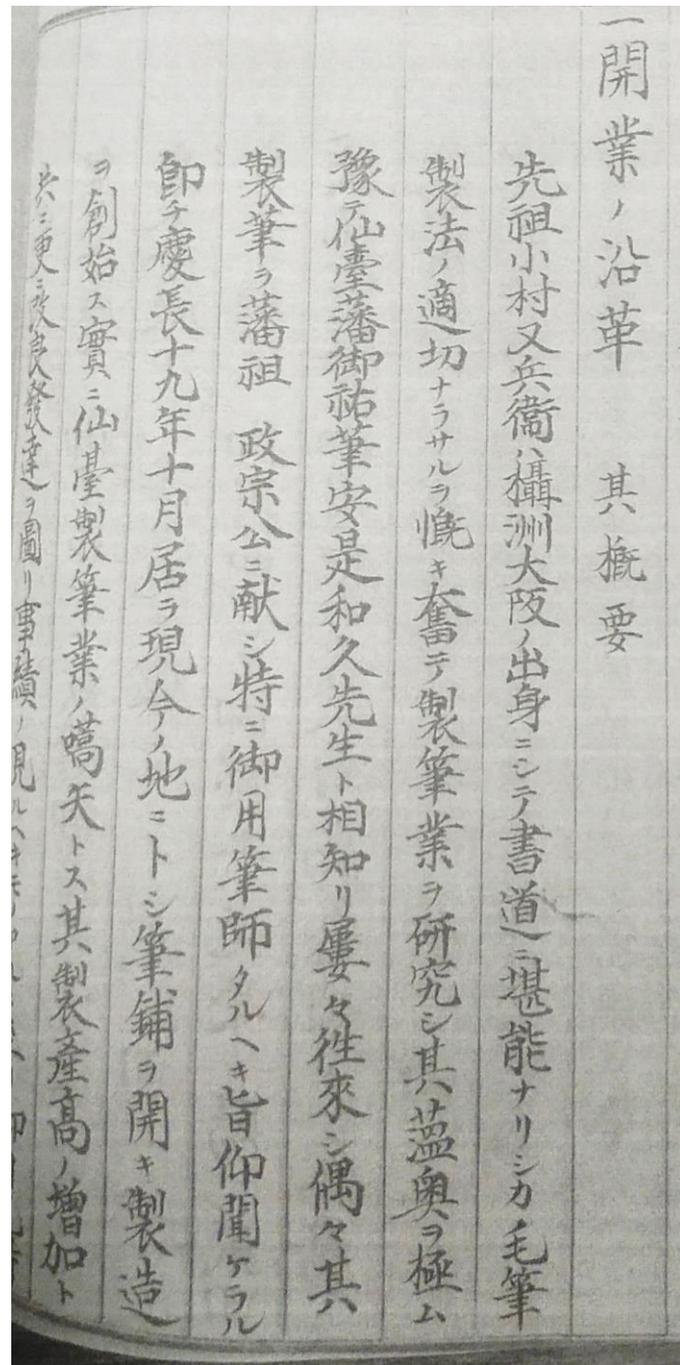
看板「御用御筆師 換鷺堂」
(東北歴史博物館蔵)

仙台御筆家伝の手仕事大友毛筆四代大友博興
(笹氣出版)



「換鷺堂」開業の沿革として
 「先祖小村又兵衛ハ摂州大阪ノ出身ニシテ書道堪能ナ
 リシカ毛筆製法ノ適切ナラサルヲ慨キ奮テ製筆業を研
 究シ蒞奥ヲ極ム」 「其製筆ヲ藩祖政宗公ニ献シ特ニ御
 用筆師タルヘキ旨仰聞ケラル 即チ慶長十九年十月居
 ヲ今ノ地ニトシ筆舗ヲ開キ製造を創業ス」とある。

※慶長19年(1614年)



えどじだい

みやぎのはぎ

じく

はぎふで

江戸時代に、仙台にゆかりの「宮城野萩」を軸とする「萩筆」が作られました。

宮城野萩

ミヤギノハギ

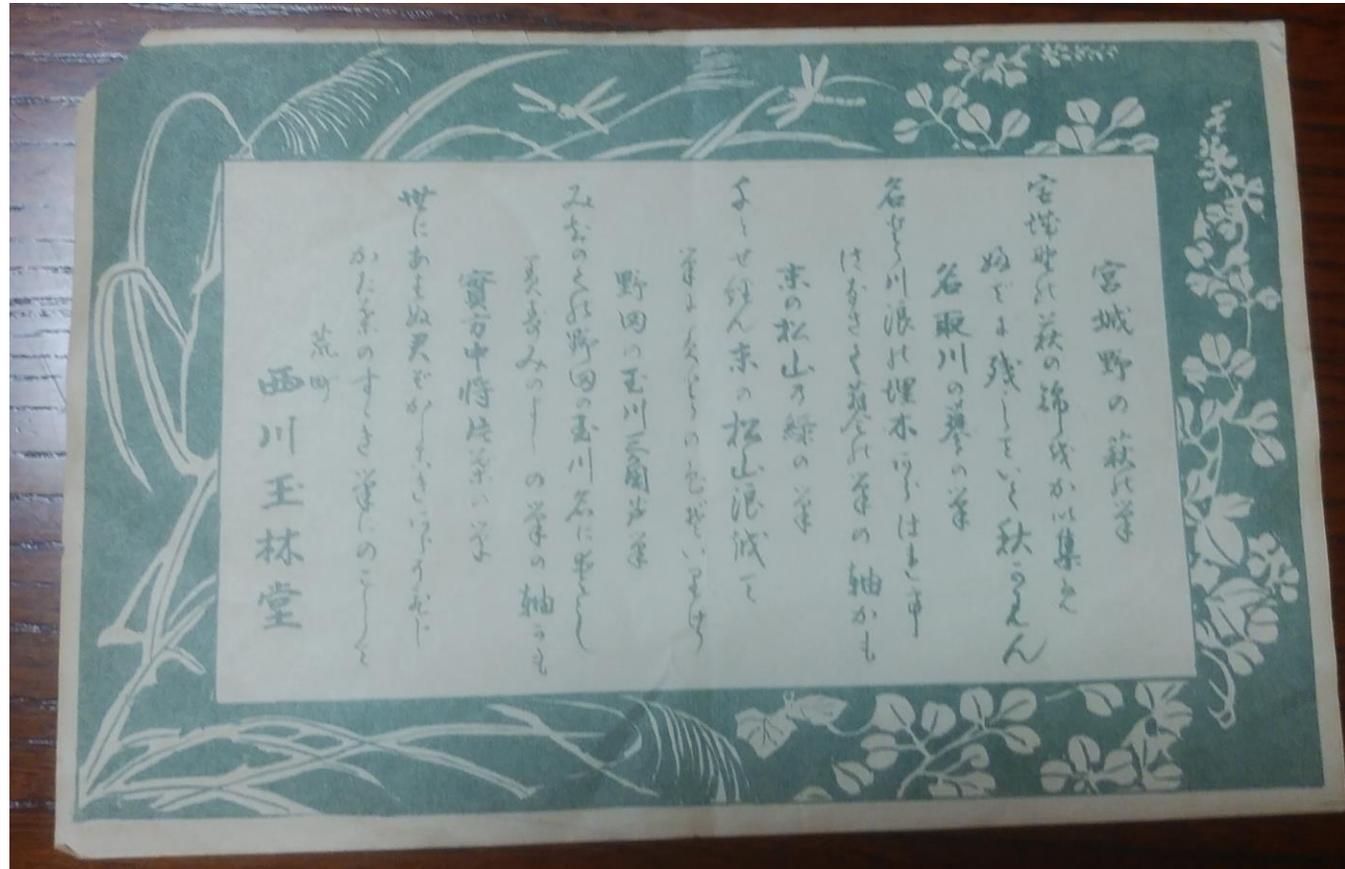


仙台市ホームページより

仙台市の花です



仙台市史 特別編3 美術工芸 (仙台市)



西川玉林堂 宮城野の萩筆のチラシ(大友毛筆)

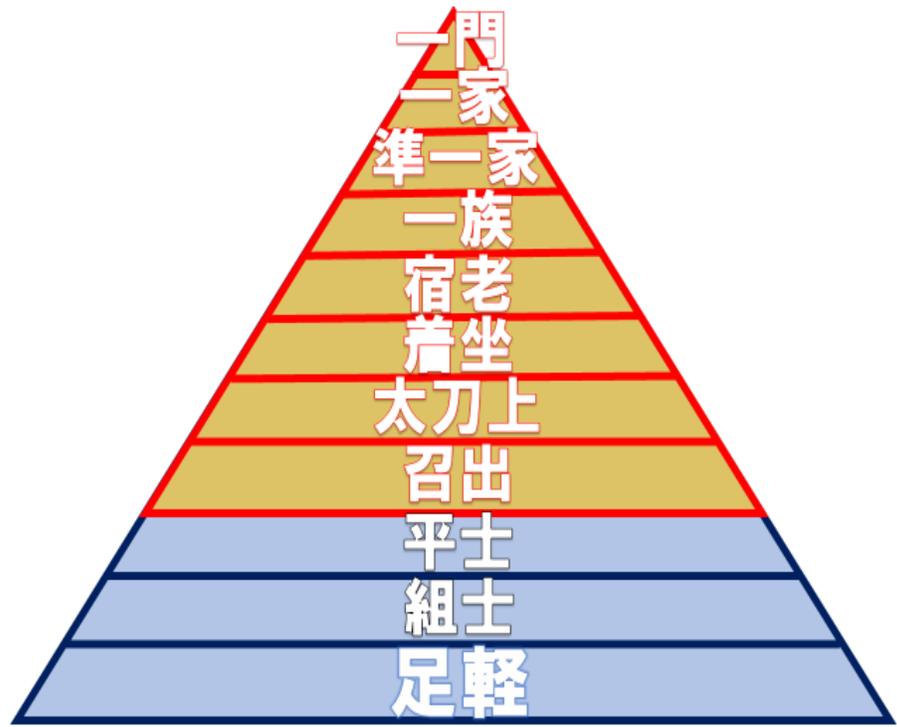
せんだいおふで こむらけ しゅうごの
仙台御筆は小村家とともに、「周五之丞」を祖とする系統があるといわれています。

しゅうごのじょう れんぼうこうじ
「周五之丞」は連坊小路のあたりで筆づくりを行ったとされ、連坊小路や三百人町は仙台における筆づくりの中心となりました。

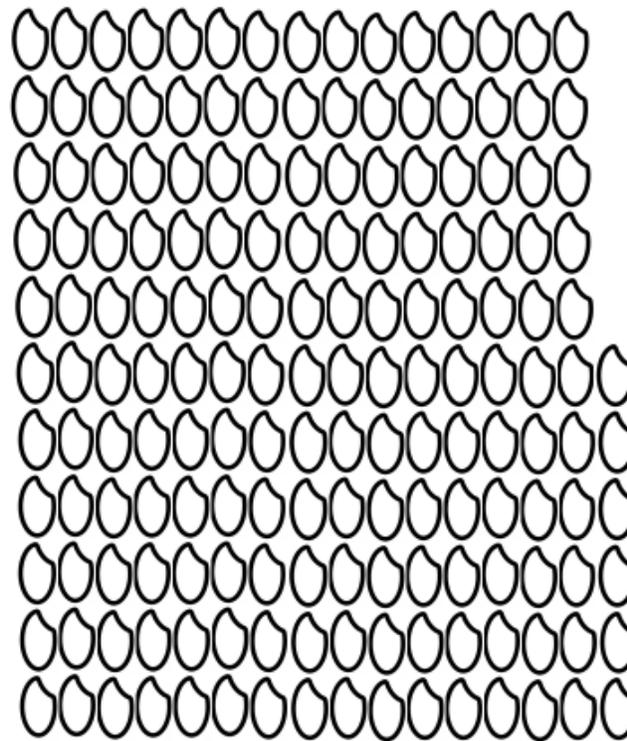


連坊小路

三百人町



伊達家臣団の家格



一門 伊達大蔵(登米)江戸初期16,294石

平士 100石~500石がほとんど 足軽16石程度

せんだいじょう

仙台城のまわりには、身分の^{みぶん}高い^{たか}武士^{ぶし}が住んでいました。仙台城下の^{じょうか}周辺^{しゅうへん}

^ぶ部には^{あしがる}足軽^{こびと}や小人^{かきゅうぶし}といった^す下級武士^すが住んでいました。^{きゅうりょう}給料^すが少なく生活

^{くる}も^{ぶし}苦し^{しごと}かった^{しよくにん}ことから^{はたら}武士^{しよくにん}としての^{はたら}仕事の^{しよくにん}ほかに^{はたら}職人^{しよくにん}としても働いていま

した。

やがて、ていねいにつくり上げられた^{せんだいふで}仙台筆は江戸や大阪・

^{きょうと ひょうばん}京都で評判となりました。

江戸時代にも「御筆」という記録が残っています。藩の御用

^{こうきゅうひん}にかかわる高級品にだけつけられていました。

「御筆」という言葉は、昭和に入って天皇に筆を献上する際

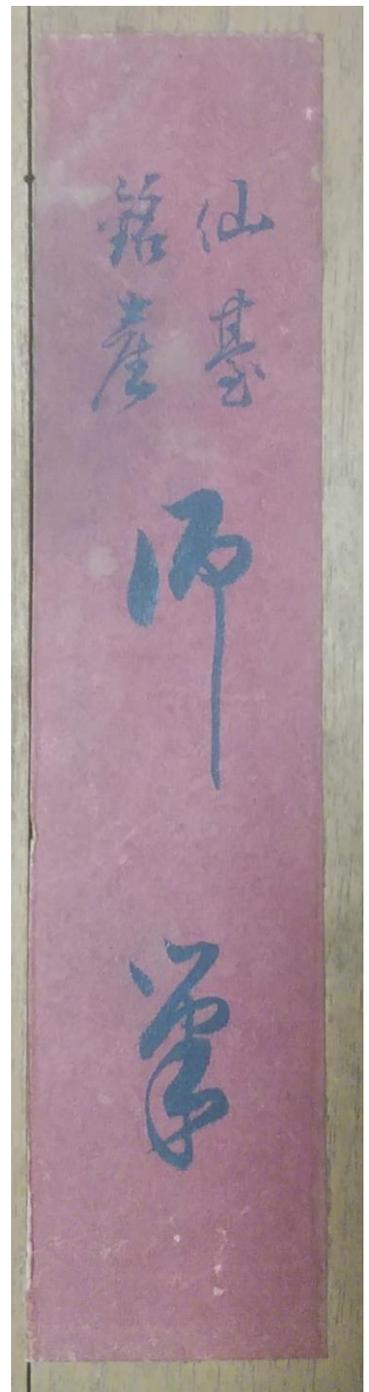
に用いられたとされ、それ以降^{いこう}仙台でつくられた筆が「^{せんだいお}仙台御

^{ふで}筆」と呼ばれるようになったとみられます。

「^{せんだいおふで}仙台御筆」という名前には、江戸時代からの伝統を受け継い

で、^{よ ふで}良い筆を作ろうという^{ふでしょくにん}仙台の筆職人のみなさんのプライド

^こが込められています。



えどじだい おしょくにん
江戸時代は、御職人

はん しょくにん しょくにん
(藩の職人) や町職人が、

みぶん ひく ぶし ない
また身分の低い武士が内

しょく じょうかまち
職として、城下町でいろ

しゅこうぎょう しごと
いろな手工業の仕事をし

ていました。

仙台には、そのことが

つた ちめい
今に伝える地名がたくさ

のこ
ん残っています。



仙台城下絵図
(仙台市ホームページ 仙台市の指定登録文化財)

資料



仙台城下絵図

(仙台市ホームページ 仙台市の指定登録文化財)

御職人・町職人の仕事と居住地

大工／元寺小路, 大工町など

畳／畳屋町など

鍛冶屋／北鍛冶町, 米ヶ袋
南鍛冶町など

染師／上染師町, 南染師町など

石工／石切町など

団扇／荒町



資料



仙台城下絵図

(仙台市ホームページ 仙台市の指定登録文化財)

仙台のすずめ踊りは、慶長8年（1603年）、仙台城移徒式（新築移転の儀式）の宴席で、泉州・堺（現在の大阪府堺市）から来ていた石工たちが、即興で披露した踊りにはじまるといわれています。

戦前までは石切町（現在の八幡町）の石工たちによって踊り継がれ、毎年、大崎八幡神社の祭礼には「すずめ踊り」を奉納するのが通例となっていました。



資料



仙台城下絵図
(仙台市ホームページ 仙台市の指定登録文化財)

足軽や下級武士の仕事と居住地

提灯／小田原, 北田町,
北七番丁～北十番丁, 堤町など
元結／土樋, 三百人町,
六十人町, 御霊屋下など
傘／連坊小路, 柴田町, 三百人町など
埋木細工／川内山屋敷
畳糸／米ヶ袋, 柴田町, 三百人町など
煙草／五十人町, 三百人町
火箸／川内山屋敷
堤焼・堤人形／堤町
仙台筆／連坊小路, 三百人町など



せんぜん

ふでしょくにん

げんざい せんだいおふで

戦前まではおよそ700人の筆職人が仙台にいましたが、現在仙台御筆の

しょくにん ひとり おおともひろおき

職人はただ一人、大友博興さんだけとなりました。

おおとも いえ だいだい あしがる かけい しょだい めいじ ねん

大友さんの家は代々足軽の家系で、初代が明治8年（1875）年に「大友

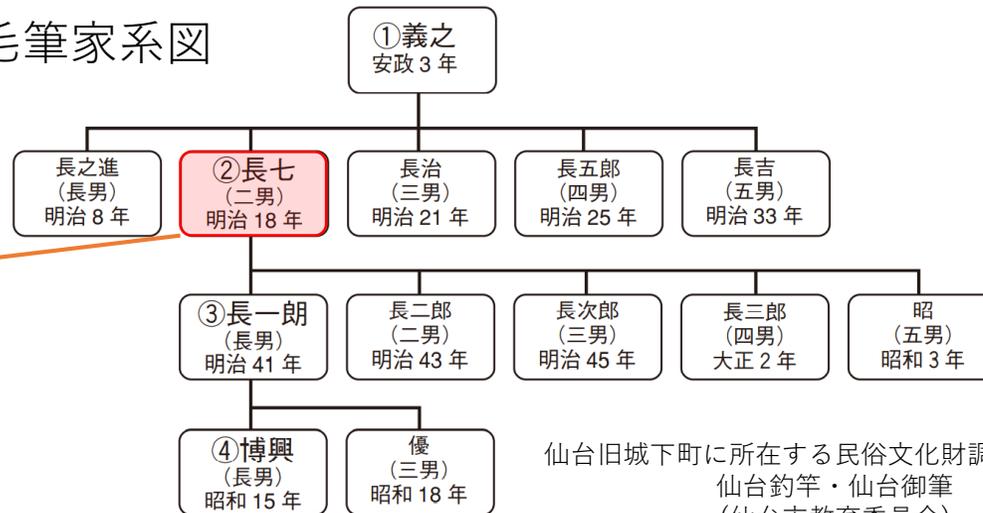
もうひつてん そうぎょう おおとも だいめ

毛筆店」を創業。大友さんは、4代目にあたります。



資料

大友毛筆家系図



仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書④
仙台釣竿・仙台御筆
(仙台市教育委員会)



二代目 大友長七

仙台御筆家伝の手仕事大友毛筆四代大友博興(笹氣出版)



大友義之の次男・長七は大正2年(1913年)に家督を継ぎ, 60人の職人を抱えるほどまでになっていました。三百人町に100人の筆職人がいたといわれていますが, その半分以上大友毛筆の仕事をしていました。

二代目大友長七作
穂は馬毛, 軸は象牙, 紫檀, 銀糸を使用。
天皇家に献上したものと同じもの。



仙台・宮城の手しごとたち 手とテとてとホームページ

おおとももうひつ やきゅう
大友毛筆で野球チームをつくっていた昭和10年(1935年)前後の写真。た
しょうわ ぜんご しゃしん
くさんの職人が筆づくりをしていました。
しょくにん ふで

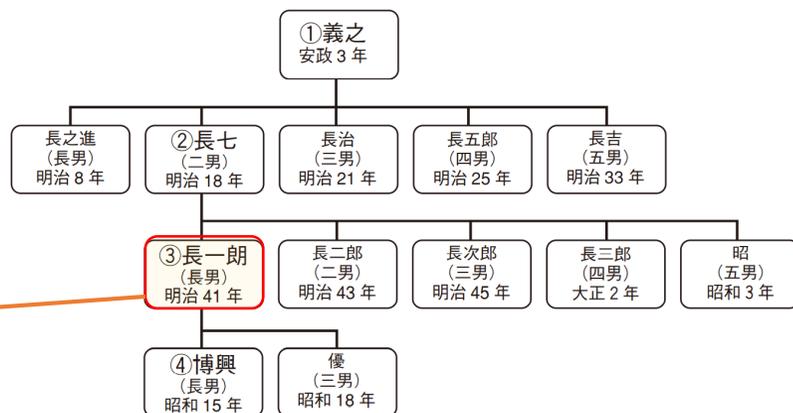
資料



東北毛筆商工協同組合の会合で
(3代目大友長一郎 前列右)

仙台御筆家伝の手仕事大友毛筆四代大友博興(笹氣出版)

大友毛筆家系図



仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書④
仙台釣竿・仙台御筆
(仙台市教育委員会)



昭和20年代の大友毛筆の工房
仙台御筆家伝の手仕事大友毛筆四代大友博興(笹氣出版)

昭和4年(1929年)に3代目となった大友長一郎。戦争が終わって、筆づくりを再開しました。しかし、戦後の物資不足のため筆づくりの材料が手に入らず、困っていました。「どうにかして材料を調達しなければ筆づくりは続けられない。」と、東北の筆職人のため筆づくりの材料の共同購入を大きな目的に「東北毛筆商工業協同組合」の結成にこぎつけ、理事長になりました。

毛筆の材料

もうひつ ようもう ざいりょう ひつじ け
毛筆の「羊毛」の材料。「羊」の毛とありますが、ヒツジではなく、
ちゅうごく やぎ け
中国のヤギ(山羊)の毛です。



ようもう ざいりょう

羊毛の材料もさまざま



製毛された状態で
仕入れたもの
大筆で約20~30本が作れ
るといいます。



原毛のままで仕入れたもの

もうひつ ざいりょう
毛筆の材料はいろいろ



馬/尾脇毛



イタチ/日本(小)
中国(大・長)



コリンスキー/ロシア



筆の材料



たぬき/日本



ばんどり (ムササビ)



テン



北海リス



ジャコウネコ



鹿/腹

鹿/背

山馬



うま け
馬の毛もさまざま



製毛された状態で
仕入れたもの
馬/尾脇毛



馬/尾脇毛



馬のたてがみ



馬の尾



馬の腹毛

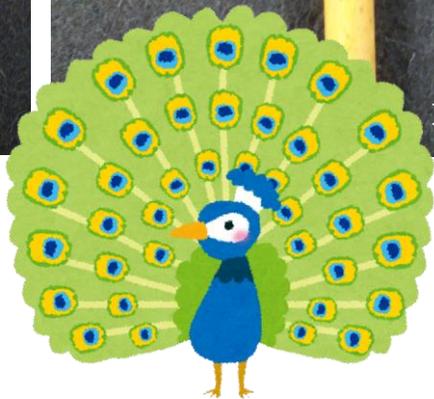
ふで ざいりょう

筆の材料はさまざま

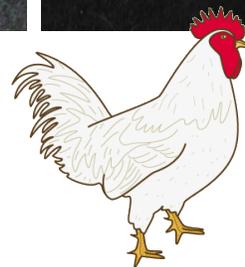
猪



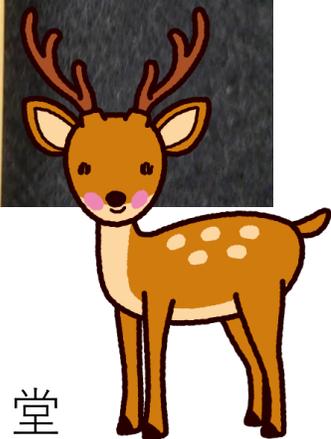
孔雀



鶏



鹿



協力 / 西川玉林堂

ふで ざいりょう

筆の材料はさまざま

熊



大友博興作

協力 / 西川玉林堂

オロンピー



牛の耳毛



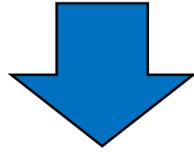
ふで ざいりょう

筆の材料はさまざま

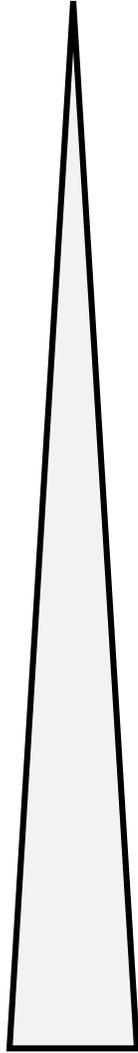
赤ちゃんの髪の毛



いちど せんたん
一度でも先端を切った毛は筆づくりには使えません。

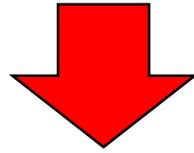


しぜん じょうたい じゅうもう
自然な状態の獣毛。
せんたん しぜん ほそ
先端が自然に細くなっている。

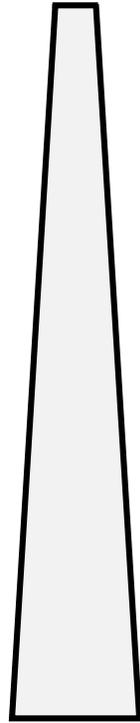


胎毛筆(赤ちゃん筆)

赤ちゃんが生まれて初めて切った髪の毛で使って作る記念筆。一度髪の毛にはさみを入れてしまうと、繊細な毛先が失われてしまうので、一生に一度のチャンスなのです。



いちど
一度でもはさみを入れた
じゅうもう せんたん
獣毛の先端。



「仙台御筆」をつくる

したごしら

■下拵え

(1)選毛【せんもう】



(2)煮沸【しゃぶつ】



(3)綿毛抜き【わたげぬき】



(4)毛揉み【けもみ】



(5)先抜き【さきぬき】



(6)先寄せ【さきよせ】

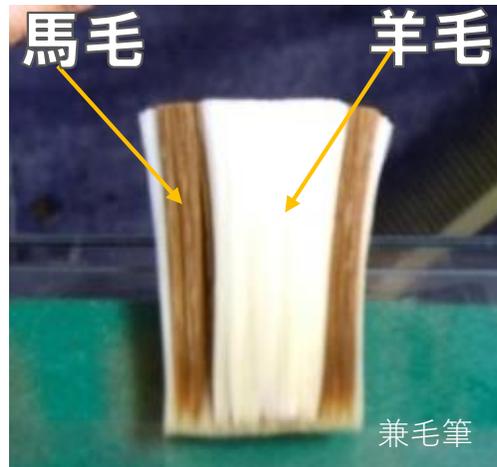


したごしら
■下拵え

(7)寸切り 【すんぎり】



「仙台御筆」をつくる



しごと
■「オカ仕事」ここからは、作業箱の上で行います。

(8)さらい取り 【さらいどり】

(9)芯合わせ 【しんあわせ】



悪い毛をとりのぞきながら均等に混ぜて割れを防いでいます。
(10)芯混ぜ 【しんませ】



「仙台御筆」をつくる

■ 「オカ仕事^{しごと}」

(11) 端合わせ【はたあわせ】



芯をうまく働かせるため
腰毛を入れ、筆の形を作ります。

(12) 芯立て【しんだて】



(13) 上毛かけ【うわげかけ】



まっすぐで上質な毛をかける



ツボ/仕上がりの筆に合わせた寸法
芯立て時、毛をはめ込み毛量を調節します。



芯出来上がり/およそ2日間乾燥



上毛かけ後2日間乾燥

「仙台御筆」をつくる

■ 「オカ仕事^{しごと}」

(14)糸締め【いとじめ】



歯でしっかりくわえる



穂首の根元をヤキゴテで引き締める

(15)すげ込み【すげこみ】



フノリを穂首に含ませる

(16)仕上げ【しあげ】



木綿糸を穂首に巻き付け余分なノリを取る作業
※2割ほどノリを残し形を整えます。

「フノリ」って？



固め筆



さばき筆

新しい筆は固められていることが多い。穂を守るだけでなく、毛をまっすぐにするために固められています。「フノリ」を用いて固めているのです。「さばき筆」も筆を作る工程では「フノリ」で固めて作業をします・



「フノリ」(布海苔)は海藻。古くから「のり」として用いられました。

「仙台御筆」の特長

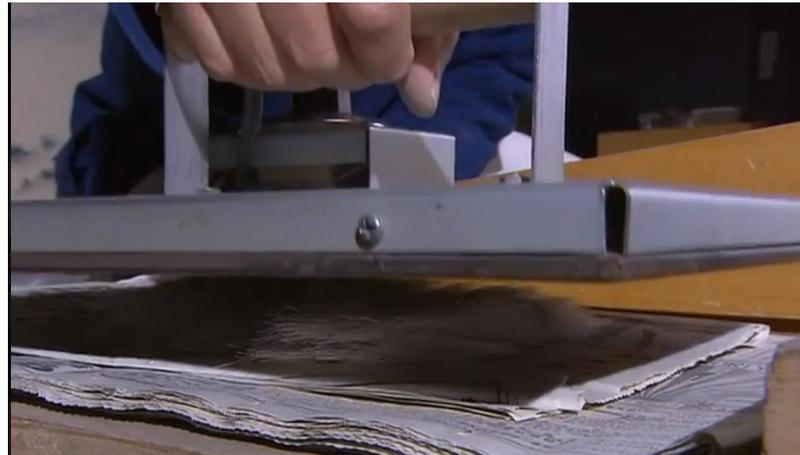
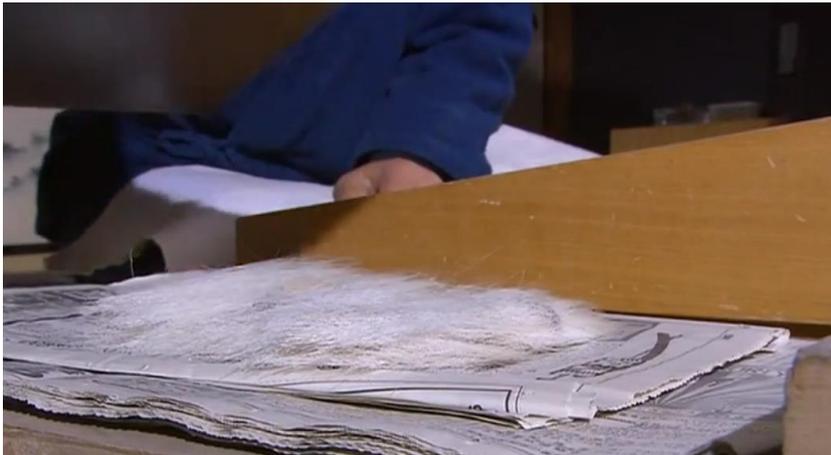


仙台御筆の「煮沸」は、一般的には「火熨斗」(ひのし/アイロン)という工程となります。

馬毛は約2時間,羊毛は約10分,殺菌や「髓を殺す」ために熱を加えます。

「煮沸」の後,2~3日乾燥させるため「火熨斗」に比べて時間と手間がかかります。しかし,「火熨斗」より毛が痛まないという利点もあります。

手間は より良い筆づくりのため



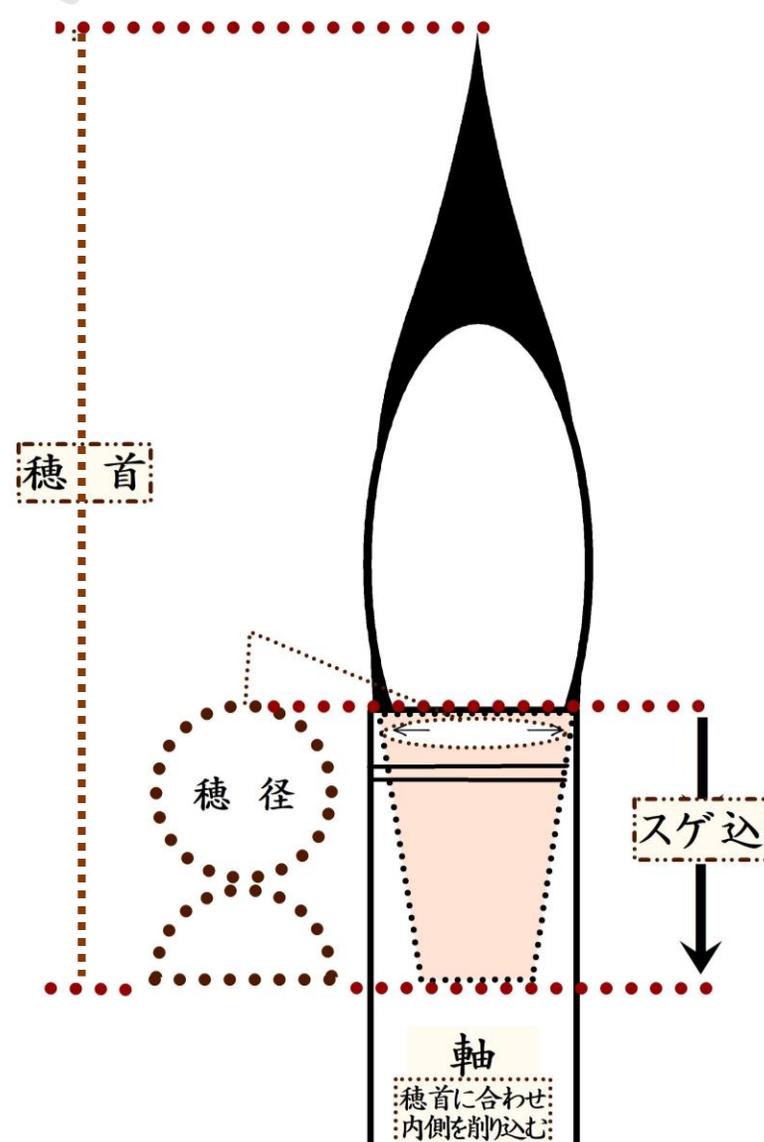
資料



穂首を一般の部でより深く軸にはめ込むために、長い毛が必要になります。「スゲ込み」の深さがあるために書いたときの「かえり」(回転)が良くなるといいます。

毛もみは、動物の毛に含まれる脂肪分や汚れを取り除き、毛の質を整えるために行います。墨の含みを良くするための重要な工程です。日本の筆づくりでは、もみ殻の灰をまぶして、鹿革でくるんでもみます。

中国の筆はこの工程で「苛性ソーダ」(水酸化ナトリウム)を用いるとのことです。薬品を使わず、自然の「もみ殻の灰」でやったほうが毛が痛まなくて良いようです。



「みんなで知ろう 若林区伝統の技」その五筆匠
大友博興『仙台御筆』(若林区文化センター)より

手間は より良い筆づくりのため

筆づくりの道具



天秤/毛の重さを計る



上/玉尺
下/ブザシ (ノギス)



ハンサシ/クシと共に各工程で最も使用する



玉尺で軸の太さを測る

南鍛冶町のお店で作ってもらったものもあります。

筆づくりの道具

何度も何度も使うクシ。金属製でも2年ほどで使えなくなるほどです。広島県から買っています。



クシ/作業工程, 筆の種類で使い分けている



キッパナシ/軸を切る



メントリ/軸の角を取る



メントリ/軸の角を取る

筆づくりの道具



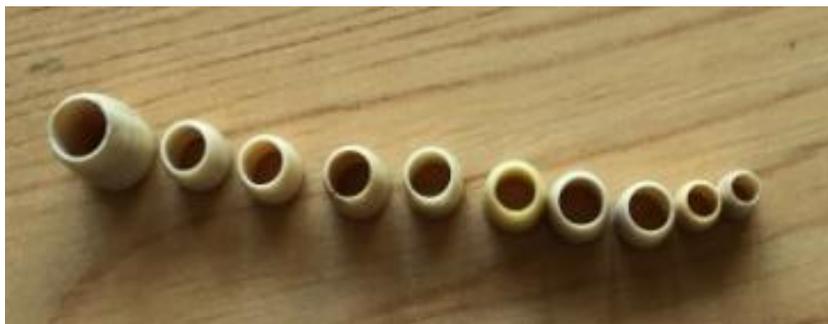
ハサミ



左上・テイタ 右上・ヨセガネ
毛を揃える
下・カタメガネ
毛の長さを決め、切る時のガイドとなる



カンナ
カンナ台とキリダシを組み合わせたもの。
竹軸の太さに合わせて調整し、切り口を削る。



ツボ/毛先の太さを決める尺



タメギ/竹軸をまっすぐに矯正する

筆づくりの道具



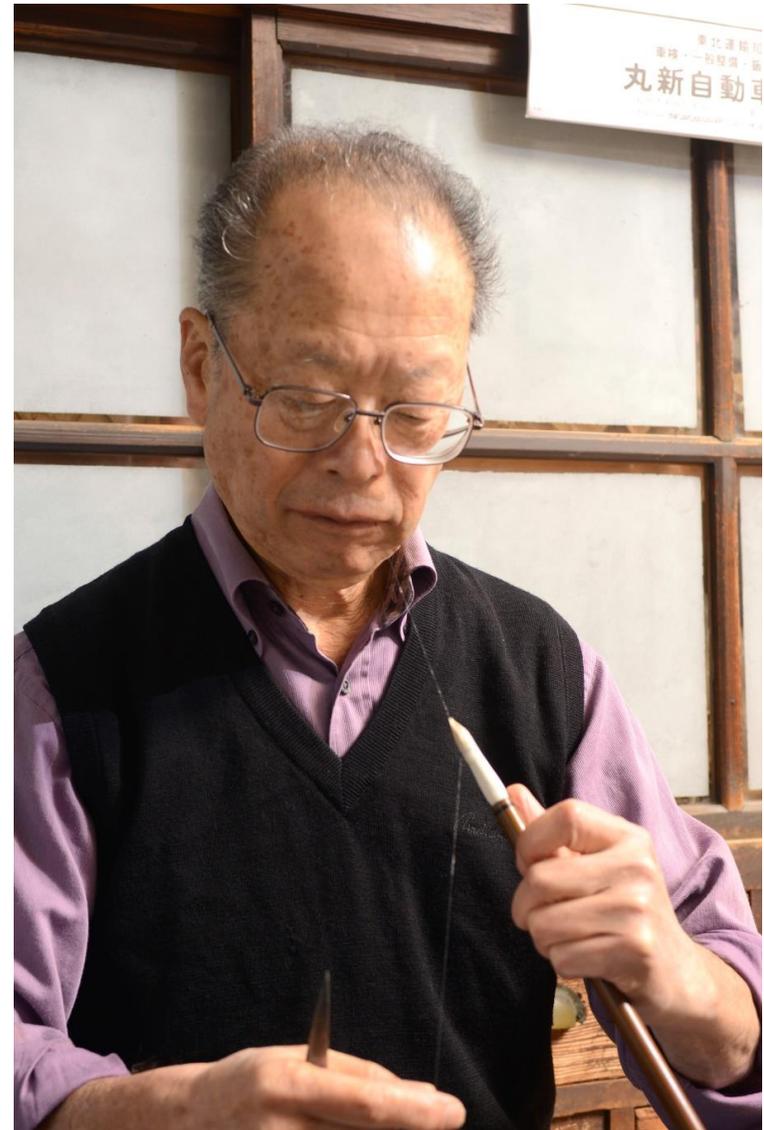
焼きゴテ
穂首の根元を締める。



ゴムイタ
クリハ使用時の台



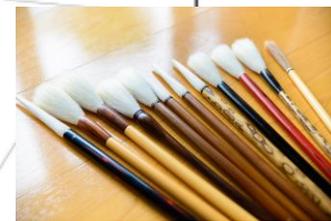
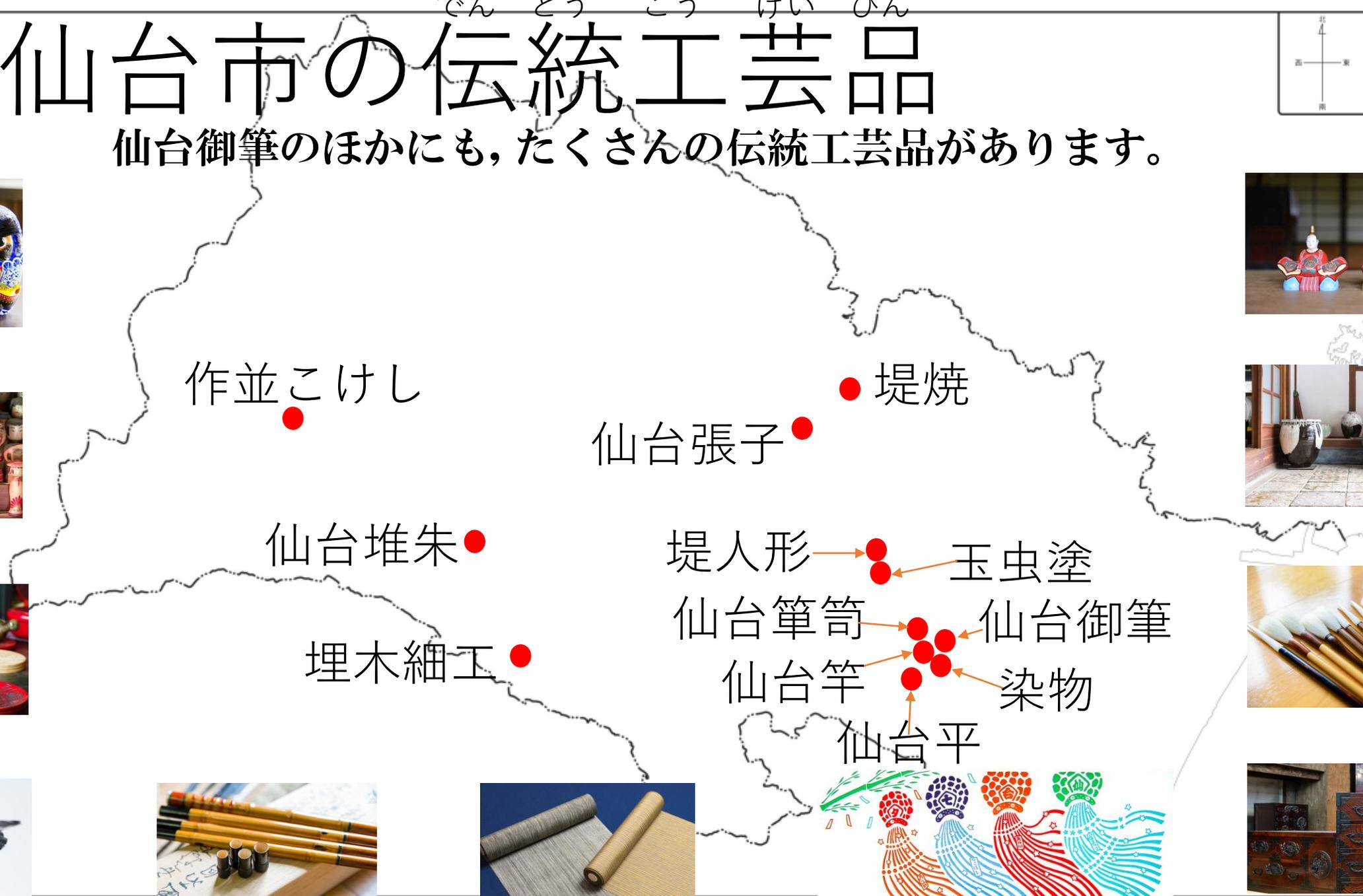
シメイト
穂先の径に合わせて、使い分ける



資料

仙台市の伝統工芸品

仙台御筆のほかにも、たくさんの伝統工芸品があります。

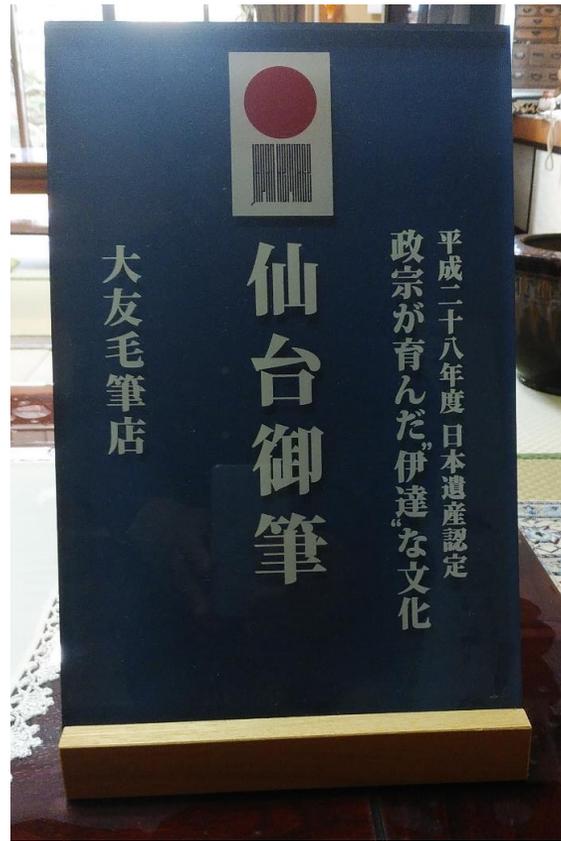




仙台御筆家伝の手仕事 大友毛筆四代大友博興(笹氣出版)

大友博興さんが書かれた「仙台御筆」

仙台御筆



平成28年度文化庁日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の構成文化財として認定されました。

仙台御筆は、慶長19年（1614年）に伊達政宗が藩の学問と産業振興を目的に、大坂の筆職人を抱えて創始したと伝えられています。三百人町や連坊小路を中心に筆づくりが盛んになり、丹念につくり上げられた仙台御筆の評判は江戸や大坂・京へと広がっていきました。宮城野萩を軸とする“萩筆”をはじめ、明治以降にはハギ・マツ・ススキ・ヨシ・タデを軸とした5本1組の“五色筆”なども人気を博しました。

(日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」ホームページから)

教えて? 大友さん!!

ふでしょくにん

Q どうして筆職人になったのですか。

じつ ふでしょくにん

実は、筆職人になるつもりはありませんでした。(笑)

中学一年生のとき、父が45才で亡くなり、中学校を卒業

して職人になりました。父の弟子に筆づくりを習いました。



Q 一人前の職人になるにはどれぐらいの時間がかかりましたか。

一人前になるには10年はかかると言われています。私は経営のことも勉強していた

ので少し時間がかかりました。

ふでしょくにんだいっぽ ふで じく

でし したしごと はじ

な

筆職人第一歩は、筆の軸になる竹を切る弟子の下仕事から始まりました。父が亡く

わざ ひととお おぼ

もうひつ だいめ

なって13年で筆づくりの技を一通り覚え、25才で大友毛筆の4代目となりました。

教えて? 大友さん!!

Q筆づくりで一番大切なのは何ですか。

書く人が求める筆を作りたいと思っています。筆づくりをはじめなっとくめて60年以上たちますが、納得がいく筆をつくることのできたと思えることはありません。「どうすれば、よい筆がつくれるか。」つねと常に考えながら筆づくりをしています。



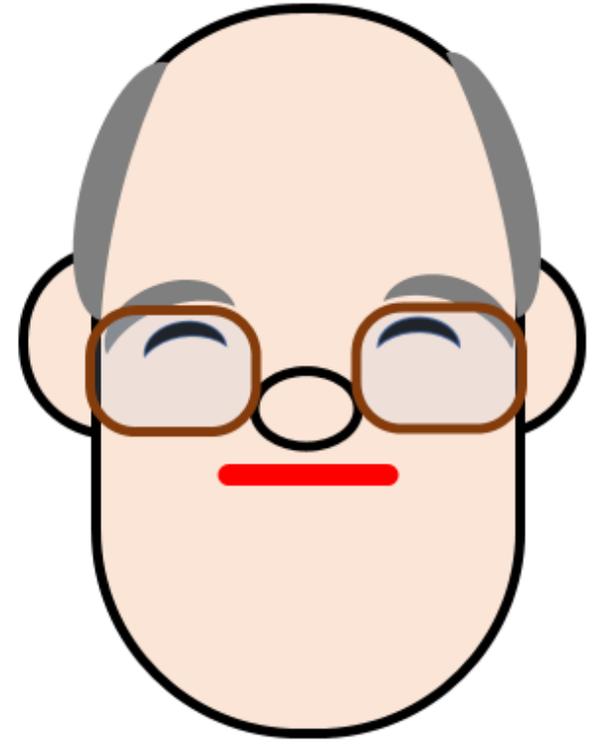
Q筆づくりの道具はどうしていますか。自分で作るのですか。

仙台御筆は、ぶんぎょう分業ではなく、すべての作業をすべて一人で作ります。さまざまな種類さぎょうの筆を、多くの工程こうていで作るため、たくさんの道具どうぐがあります。多くは、ひろしま広島から取りよせています。中にはみなみかじまち仙台市の南鍛冶町の店に頼んで作ってもらったものもあります。

教えて? 大友さん!!

Q大友さんの筆づくりを受けつぐ人はいないのですか。

^{ざんねん} 残念ながら、^{ひっきぐ} いません。^{ちゅうしん} 筆記具の中心はペンやパソコンになり、
^へ 筆を買う人が減ってしまいました。また、^{しゅぎょう} 修行に^{いじょう} 10年以上かかる
^{でしい} こともあり、^{ことわ} 弟子入りはお断りしています。



Q年を取ってきて筆づくりはたいへんですか。

筆づくりは、^{はだ} 肌の^{かんかく} 感覚と、^わ 良い悪いを見分ける目が大切なので、年をとってきたのでた
^{ねんれい} くさんの筆を作ることはできなくなりました。しかし、年齢とともにものの「よしあ
^{けいけん} し」がよく見えるようになってきました。時間や^{ぎじゅつめん} 経験とともに^{おとろ} 技術面の^{おぎな} 衰えは補える
のかなあ。

教えて? 大友さん!!

Q筆をつくっていてうれしいことは何ですか。

わたしの筆を使っている人から、「あの筆はよかったよ。」とおほめの^{ことば}言葉をいただいたときです。20年も、30年も^{つか}使った筆の^{しゅうり}修理をたのまれることもあります。「大事に^{だいじ}使^{つか}っていただいてありがたいなあ。」という気持ちになります。



「^{じゅみょう}仙台御筆は、^{だんりよく}寿命が長く、^{すみもち}弾力があり、^{みつど}墨持ちが良く、^{ぜんこくじょうい}線の密度が出るなど、^{めいとう}全国上位にあると私は信じています。すでに50年以上使^{あいよう}っていても、今なお名刀として愛用している筆もあります。」

※河北書道展審査委員長を務め、宮城の書道界の中心として活躍された加藤翠柳氏の言葉。

教えて? 大友さん!!

Q筆を使うときはどんなことに気をつけたらよいのでしょうか。

筆は動物の毛で作っています。^{ねっとう}熱湯につけたり、^{ぼくえき}墨液につけばなしにしておくのはよくありません。使い終わったら ^{みずあら}ていねいに水洗いしてください。筆は^{ねもと}根元のほうに ^{すみ}墨が ^{のこ}残っています。^{ねもと}根元に ^{すいどう}水道の水を ^{あら}少しずつ ^{みずあら}洗って、^{みずあら}もみ洗いをしてください。時間 ^{かる}をかけて ^{かわ}黒い水が出なくなるまで洗ってください。水洗いしたら、^{かる}軽く ^{みずあら}しぼって ^{かる}日の ^{かわ}当たらないところで ^{かわ}乾かすのが ^{かわ}よろしいのではないですか。



みなさんが学校で使っているような大筆1本を作るのに、2~3週間、^{こうてい}たくさんの ^{こうてい}工程で作っています。毛筆はすべて手作りです。わたしたち筆職人は、書く人のことを考えて、^{こうてい}ていねいに心をこめてつくっています。筆を大切に使うてもらえると、うれしいです。

教えて? 大友さん!!

Q子どもたちに伝えたいことはありませんか。

しょうどう 書道というのには長い歴史れきしがあります。脈々として受け継つがれてきた文化ぶんかです。書いた文字には、書く人の個性こせいがあらわれます。「書は人なり」といいます。「書道十徳しょうどうじゅっとく」
といい、書道じんせいをやることによって人生が豊かゆたになると思
います。

した
どうぞ書道に親しんでいただきたいと思います。



※書道十徳「心を豊かにし、人格を陶冶する」「主役・脇役・湧かせ役、ハレの場面を引き立てる」「能筆は一生の宝、教養度の物指しとなる」「実用性と芸術性、その特性・魅力は不易である」「脳を鍛え、創作の楽しみ、夢とロマンが広がる」「礼儀作法を尊び、精神力を涵養する」「歴史や文化への造詣が深まる」「嗜むほどに奥深く、生涯の友となる」「道を志すに年齢なし、経験は書の力となる」「技は人を凜とさせ、芸は身を助ける」

学習を広げたいみなさんへ

ここに技あり
江戸時代の職人さん・明治以降の職人仕事



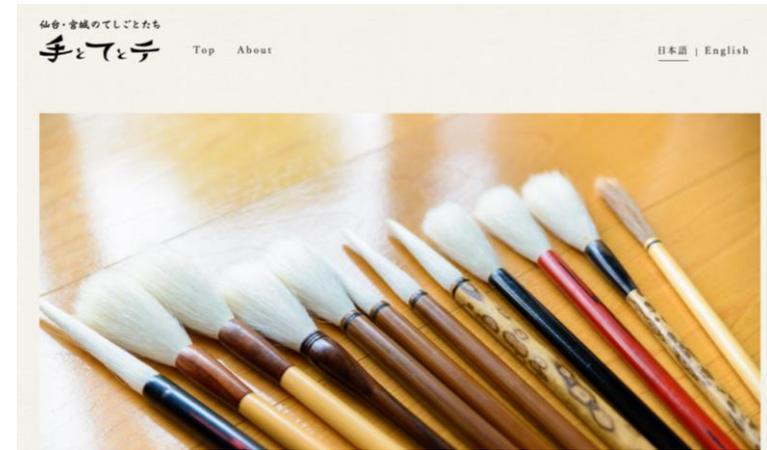
ここに技あり 江戸時代の職人さん・明治以降の職人仕事

若林区は、仙台市内では職人さんが多いところ。車で通り過ぎるだけではなかなかわかりませんが、訪ねれば町のあちこちで腕によりをかけて仕事をする職人さんとお出会うことができます。江戸時代に生まれ、根づいた仕事、時を経て受け継がれ、今日に伝えられているのです。

江戸時代の職人さん

江戸時代は、御職人（おしよくにん・藩に召し抱えられた職人）や町職人が、また足軽や下級武士が内職として、城下町でいろいろな手工業の仕事をしていました。御職人は切米（現金）や扶持米（米）をもらいながら、藩の御用を務めていました。町人町に暮らした町職人の職種は御職人とほとんど変わりはありませんでしたが、家禄は受けず、藩に税を取めなければなりません。中には腕のよい職人もおり、藩の御用も務めたといいます。また足軽や下級武士たちも、生活のためにものづくりに精を出しました。現在、若林区となった町にも、たくさんの職

仙台・宮城の手しごとたち 手とテとてと
「仙台御筆」



日本遺産
「政宗が育んだ“伊達”な文化」



政宗
伊達
な文化

宮城文化財
45

45 仙台御筆

宮城の伝統工芸品



学習を広げたいみなさんへ

熊野町 筆の里工房



豊橋筆 筆屋いとう



奈良筆 あかしや



雲平筆 攀桂堂



協力していただいたみなさん

大友毛筆 大友博興さん

西川玉林堂

仙台市若林区文化センター

仙台市若林区文化センター 小野寺利恵さん

仙台市若林区文化センター 佐藤陽子さん

資料提供

仙台市若林区文化センター

参考にした資料

仙台御筆 家伝の手仕事 大友毛筆 四代 大友博興 (笹氣出版)

「みんなで知ろう 若林区伝統の技」その五 筆匠 大友博興『仙台御筆』(若林区文化センター)

仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書④仙台釣竿・仙台御筆(仙台市教育委員会)

仙台市史 近世Ⅰ・特別編3美術工芸(仙台市)

せんだい職人づくり(仙台市歴史民俗資料館)

復刻版 仙台城下絵図(延宝・天和年間)(仙台市歴史民俗資料館)

仙台市歴史民俗資料館常設展示図録(仙台市歴史民俗資料館)

仙台市若林区ホームページ「ここに技あり江戸時代の職人さん・明治以降の職人仕事」

仙台・宮城の手しごとたち 手とテとてとホームページ 「仙台御筆」

宮城県ホームページ「宮城の伝統工芸品」

広島県熊野町筆の里工房ホームページ

「仙台御筆」は、小学生の書写や総合、社会の学習のためにと考え作成いたしました。
仙台市若林区文化センターのご厚意でたくさんの資料を提供していただきました。また、大友博興さんにはたくさんのことを教えていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。
お気付きの点などありましたらご連絡いただけたら幸いです。

仙台御筆

令和3年9月28日

仙台市立南材木町小学校

〒984-0805 仙台市若林区南材木町84番地
TEL.022-222-6847 FAX.022-222-0671
<http://www.sendai-c.ed.jp/~nanzai/>
E-mail nanzai@sendai-c.ed.jp
